

Hello! FUJISEI

No.244

昭和56年から30年以上にわたって日本人の死因トップはがんです。テレビなどでは、九州大などの研究チームによる「尿1滴でがんの有無を判断！」が話題となっています。

内閣府の「がん対策に関する世論調査の概要」(平成27年1月)では、がんについて知っていることは、「がんの治療方法には、大きく手術療法、化学療法、放射線療法がある」が66.6%、「子宮頸がんのように若い世代で増えているがんもある」が62.8%、「たばこは、さまざまながんの原因の中で、予防可能な最大の原因である」が62.4%と高く、次いで、「日本では、死亡者の約3人に1人が、がんで死亡している」(43.6%)でした。

治療のための技術・機器等は日々進歩していますが、やはり国による支援も必要です。

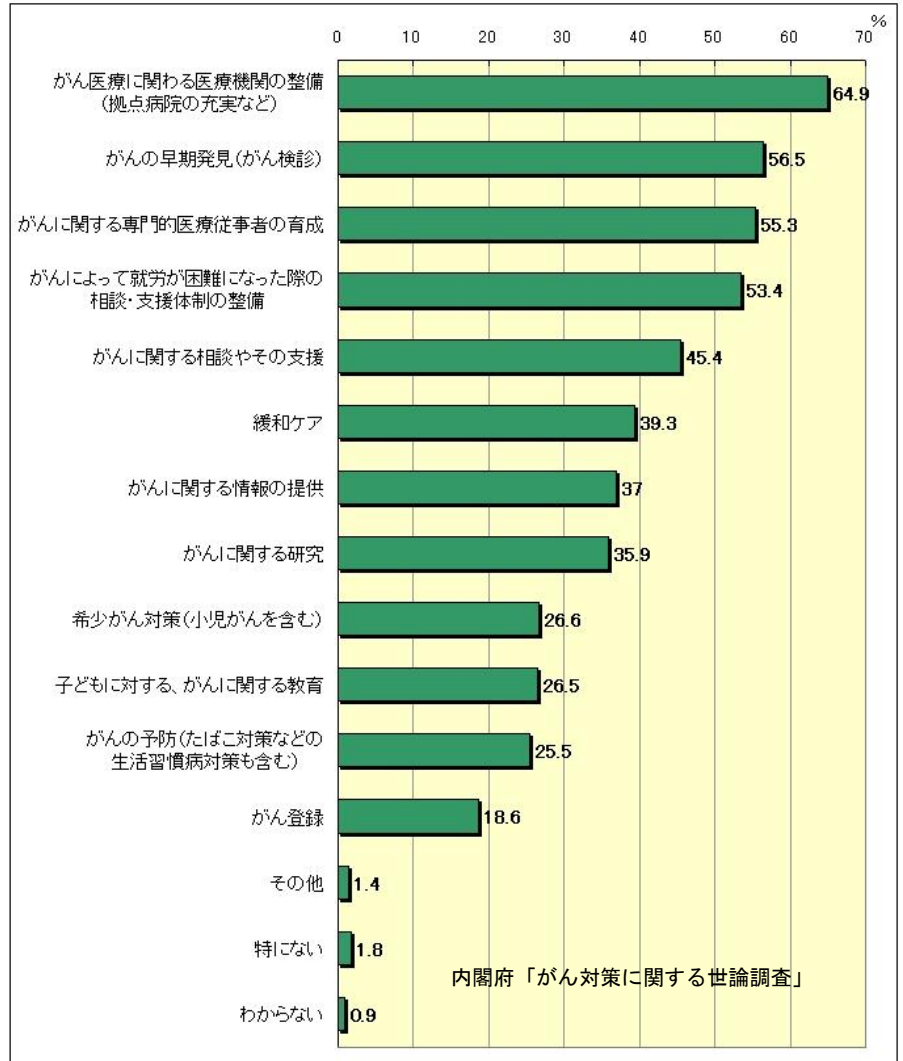
がん対策についての政府への要望としては、「がん医療に関わる医療機関の整備」が64.9%と最も高く、以下、「がんの早期発見(がん検診)」「がんに関する専門的医療従事者の育成」「がんによって就労が困難になった際の相談・支援体制の整備」の順となっています。

前回調査と比較すると、「がん医療に関わる医療機関の整備」(54.2%→64.9%)、「がんに関する専門的医療従事者の育成」(48.0%→55.3%)、「がんによって就労が困難に

がん対策への要望

医療機関の整備や 早期発見、専門家育成

がん対策に関する政府への要望 (複数回答)



なった際の相談・支援体制の整備」(50.0%→53.4%)が上昇し、「がんの早期発見(がん検診)」(67.2%→56.5%)は低下しています。

年齢別では、「がん医療に関わる医療機関の整備」は20歳代から50歳代

で、「がんの早期発見(がん検診)」は20歳代、30歳代で、「がんに関する専門的医療従事者の育成」「がんによって就労が困難になった際の相談・支援体制の整備」は40歳代、50歳代で、それぞれ高くなっています。

AIG富士生命保険株式会社

〒105-8633 東京都港区虎ノ門4-3-20
神谷町MTビル